

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290201120		
法人名	有限会社RAIMU		
事業所名	グループホームほほえみ	ユニット名	はな
所在地	長崎県佐世保市萩坂町1750-1		
自己評価作成日	2021年2月10日	評価結果市町村受理日	2022年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topjigovso_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2022年3月14日	評価確定日	2022年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症介護指導者である代表者を中心に、地域での暮らしが継続していけるよう、地域住民の方々、協力医療機関などのご協力をいただきながら、日々理念である「らしく いきよう むげんに」を念頭に認知症ケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者がいろんな場面で、理念に基づいたケアの在り方を提案をすることで、職員間の意識も高まっている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩等の活動の際などを通じて、近隣の住民と挨拶や会話を交わすことで、顔なじみの関係を保つことが出来ている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校へ、介護のお仕事の講話を行ったりすることで認知症に対する理解を深めてもらえるよう努めている。また、近所の病院、駐在所、薬局の方と、支援方法の相談や情報交換を双方で行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が頂いた意見に基づいて、取り組みの状況等の確認、見直しを行い、サービスの向上に活かすことができている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人代表が市町村担当者との連絡、連携を密に行っている。また管理者も市町村と日ごろから連絡を取り、要望等には積極的に協力している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会は定期での開催の他に、検討事項がある際には臨時で身体拘束防止委員会を開催して、防止に向けた取り組みや不適切ケアの根絶に向けての話し合いを行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待防止委員会を設置して、定期的に会議を行い、勉強会の開催や虐待防止に向けた取り組みを行っている。法人の委員会とも連携を行い、事業所間で情報交換を行っている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開催して日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する理解を深めている。また、利用者の中も、同制度を利用されている方がいる為、職員も日常的に学ぶ機会がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にご本人やご家族と面談を行い、不安や疑問点についてお尋ねして、ご理解、納得を頂いた上で入居の手続きを頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に会った際には、管理者や職員より、ご意見や要望がないかこまめに聞き取りを行っている。また、電話連絡等により、ご本人の様子を伝えてご意見を頂きやすい雰囲気づくりに努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や申し送りの他にも、日々の会話や面談等を通じて管理者は職員の意見を聞き、運営に反映させるようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの生活環境や体調等に配慮しながら、無理の範囲で勤務することができるよう職員と相談して勤務表作成を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行われる勉強会では、職員が担当となりテーマに沿った勉強会の内容や資料作成を行った。職員が主導的に取り組む事でさらに学びを深める事ができるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人が行っている研修事業などに管理者が参加することで同業者との交流を深めている。また、対面、ネットワーク含め、多くの研修への参加を職員に促し、積極的な参加ができている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人に面談を行い、お話を聞く機会を作っている。また、ご本人に施設見学に来ていただき、施設の様子をお話している。入居後も初期は特に本人よりこまめに要望や不満、意見等の聞き取りを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居選考時に、ご家族への面談を行い、ゆっくりお話を聞く機会を作っている。施設見学にもきて頂き、入居後の生活の相談等に応じている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居選考時にご本人やご家族と相談を行い、要望や希望を聞きながら、必要なサービスを話し合っている。まずは、ご本人やご家族が入居を希望されているかの確認から、必要性も含めた相談・調整を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができる役割活動をして頂いたり、職員もわからない事に相談を行い、助け合って生活が送れている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にしかできない協力を積極的にお願したり、コロナ渦においても、家族との面会やふれあいの機会をできるだけ維持することで、ご本人が生きがいを持って生活が送れるよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が近隣の方は、病院受診や散歩の際などに馴染みの方との挨拶等を交わすことが出来ている。外出機会が減っている為、できる限り、以前、関係があった方や場所の話を積極的に行うようにしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が気兼ねなく会話できるようなスペースを設け、会話を楽しませている。悩み事なども話され、入居者同士で励まされている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>亡くなられた入居者様への近況を伺うはがきを出したり、近隣でご家族とあった際には、近況を伝え合うなど、良好な関係性を保っている</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の聞き取りの他、入居後もご本人の生活の様子や会話の中から得た情報を、カンファレンス等で話し合い、意向や希望を汲み取りケアプランに反映させている</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の聞き取りの他、入居後もご本人やご家族から聞き取りや会話の中から得た情報から、これまで生活された環境に近い形で生活が継続できるように努めている</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>ご本人の生活の様子をケース記録に細かく残し、それを基にカンファレンス等で話し合い、心身状態や有する力の現状を把握することでケアプランに反映させている</p>		
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人やご家族から聞き取りを行ったり、本人の様子をケース記録に細かく残して、カンファレンス等で話し合い、ケアプランの反映させている</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケース記録や申し送り等で、ケアの実践の結果や、気づきを記録に残し、職員間で情報を共有してカンファレンス等で話し合い、ケアプランに反映させている</p>		

28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員がその時々気づいたことは、ケース記録や申し送りノートで記録に残して、会議やケースカンファレンスで話し合う事で、より良いケアを行えるように努めている		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人やご家族からの聞き取りや、ご本人の様子や生活歴の中からヒントを得て、趣味や特技を活かした生活がおくれるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関が、元々のかかりつけ医だった入居者様が多いため、かかりつけ医や看護師からの情報提供を頂いている。それ以外にも、医療機関との連携を密にとる事で適切な医療が受けられるように支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職であったも勉強会等を通じて、医療や薬に関する知識を持ち、入居者の日々の変化に気づき、看護師や医師に報告を行うように努めている。週に一回の訪問看護の際に看護師に情報提供や相談を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを提供して、ご本人の様子を細かく伝えている。入院中も、ご家族やソーシャルワーカーとこまめに連絡をとり早期退院に向けての連絡・調整を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですること十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より終末期の診断が出た場合、速やかにご家族に連絡を取り、主治医より説明をして頂いている。その上で、当事業所で出来ること出来ない事を再度、説明してご家族が理解された上で今後のケアの方針を決定している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や外部研修の参加等で、急変時の対応や心肺蘇生法等を学んでいる。また、緊急時のフローチャートを作成して、事務所に設置して、すぐに確認できるようにしている		

	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	昼夜どちらも想定した訓練を定期的に行っている。1Fのデイサービスと協力したり、近隣の方にも定期的に挨拶を行い災害時の協力をお願いしている。また、定期的にコンセント周りを掃除する日を設けたり、火災訓練にクイズ形式を取り入れたり、防火意識の向上に力を入れている	
--	--	--	--

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの性格に合わせて、誇りやプライバシーを損ねない様な言葉かけを行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択の場面では必ず、ご本人に確認を行い、ご本人に選択して頂いている。日常生活の中で、職員は思いや希望に耳を傾け、可能な限りの実現を目指している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースで過ごして頂けるように、一人ひとりの希望を聞いて、個別で対応を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を着たりおしゃれが出来るように、ご本人自身に洋服を選んでいただいたり、ご本人やご家族と相談しながらその人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前にご本人やご家族から食事の好みについて聞き取りを行っている。食べやすさ等にも配慮して、食材の切り方等にも気を配っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりに合わせた食形態や食事量で提供している。食事摂取量や水分摂取量を記録して、食事量や水分量低下の早期発見に努めている		

42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>歯磨きや義歯の手入れはご自身でできる場合は自身で頂き義歯の消毒などは職員が介助している。ご自身で口腔ケアが難しい場合には、ガーゼやスポンジブラシを使用して介助している</p>		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄管理表やIN・OUT表を活用して、排泄パターンを確認して適切に排泄誘導を行っている。日中は特に、体調に配慮しながらトイレでの排泄ができるように声掛け、介助を行っている</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘症の方には、ホットミルクや乳酸菌飲料を飲んで頂いたり、運動や体操を促して、日頃より便秘の解消に努めている</p>		
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>出来る限り、一人ひとりの要望を聞いて、個別に好みの時間に入浴できるように配慮している</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>居室や、ソファ、畳などのスペースで入居者様が好きな時に好きな時間に休めるように配慮している</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>病院より処方された薬についての情報は申し送りで全職員で共有している。新しい処方薬は、主治医、薬剤師、看護師に注意事項や内服のタイミングを確認している</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ご本人やご家族、居宅のケアマネジャーに趣味や得意な事、職業などを伺い、好きな事や得意な事に取り組めるような環境づくりを行っている</p>		

49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や気候の良い日は、数名ずつで近所の神社まで散歩したり近所の川に鯉を見に行ったり、コロナ禍であっても出来る限り外に出れるように努めている		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	医療費など、ご家族からの預かり金はホームで管理しているが、希望があられる方は、ご自身で財布を持ち金を管理されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より定期的に手紙を頂いたり、敬老会の際には、ご家族に手紙の依頼をしたところ、ご家族やご親戚からたくさんのお手紙を頂いた。返事が書ける方は、やり取りをされている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室とフロアの導線を考え、移動しやすい様に配慮している。洗面所やフロアの壁に、花や季節の飾り物をする事で季節感を感じて頂いている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファ、畳など好きな場所でご自身のペースで過ごして頂いてる。退屈そうにされている時は、職員が声をかけ、孤独感を感じないように配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人が使い慣れた物や馴染みの物を持ち込んで頂くことで、落ち着いて居室で過ごすことができるよう説明を行っている。居室内にご家族と一緒に映った写真を飾ったり、整理整頓を行う事で居心地よく過ごして頂いている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全てバリアフリーになっている。居室やトイレ、浴室には名札を掲示しており、入居者様は、手すりや自助具を利用して出来る限りご自身で自立した生活が送れる様に配慮している		